

JOCV千葉OB会報

2016年1月
No. 89
新年号

1. 会長挨拶

謹賀新年、2016年のスタートです。今年も、明るく、元気に、そして楽しくOB会活動を続けたいと思っています。前年の2015年11月17日には青年海外協力隊発足50周年記念式典が天皇皇后両陛下にご臨席賜り、横浜にて盛大に開催されました。会場のパシフィコ横浜が満杯になり二本松や駒ヶ根から駆けつけた訓練生が入りきれないくらい4,700名もの出席者がありました。平日の水曜日午後開催だったにもかかわらず、全国から実に多くのOB/OGを含む関係者が集まってきました。会場内外は正に同窓会的な雰囲気もあり、何十年ぶりに会う人もいて、久しぶりにJOCVの雰囲気を満喫しました。

式辞の中では、最初の50年が過ぎ、次の50年に向かう姿勢が盛り込まれていましたが、「これからの50年はどうなるのでしょうか？」と言うのが正直な感想です。

この50年で事業の本質はだいぶ変質しました。良い悪いは別にして、事業が発展するには、時代にあった変革が求められ、事業実施者の創意工夫により事業は変わり続けなければなりません。その結果が今です。次の50年に向かっては、更にこれまでにない何かが必要ではないかと思っています。

事業発足当時は「技術協力」と「日本青年の育成」の両面があり、ボランティア活動だからといって自分勝手に何かやれば良いというのではなく、受入国の要請に応えなければとの気概もありました。なにより、ボランティアスピリッツ、あるいはパイオニアスピリッツの言葉に象徴されるように、任国での活動は、毎日がスリルとアドベンチャー、それにちょっとロマンスという、いかにも青年らしいものでした。

50年の時代の流れの中で、事業理念は大きく変わり、国民参加型事業として定着し、JICA/JOCVは事業の主体者としての位置づけから、自発的に開発途上国でボランティア活動をやりたいという日本青年を支援する立場に変わったと理解しています。

ボランティアという言葉が馴染のなかった昭和40年代からスタートして、国内での幾多の災害、特に、阪神淡路大震災、東日本大震災を経て、ボランティアが根付き、国内では普通にボランティア活動に参加する人々が生まれました。もちろんボランティア精神に満ち溢れている隊員OB/OGの中にはNGOやNPOなどのボランティア団体を立ち上げ日本国内外で活動している方々が大勢います。

次の50年に向けて誤解を恐れずに発言したいと思っていることが一つだけあります。それは、これまでの50年と同様にこれからの50年も事業の実施機関はJICA/JOCVで良いのでしょうか？どこか他にこの素晴らしい事業を実施できる機関はないのでしょうか？

20歳代後半のケニア隊員からスタートして、帰国後JICAへ中途入団、定年退職後はOB会活動と40年近くも協力隊事業に

関わってきた者としてはいかがなものかと思う方もいるかもしれませんが、これからの50年を考えると、もっと大きな変革が必要だと確信しています。かつては、JICAから独立する援助庁構想や社会党版協力隊構想、更にはJOCAも非公式ながらJICAから協力隊事業を移管させようと真剣に議論していたこともありましたが、今は昔の物語ですが、今の協力隊事業には何かが欠けているような気がします。年寄りのなんとかと言うことかもしれませんが、協力隊事業を愛する者として、この素晴らしい事業をいつまでも充実した事業にするために、若者にとって魅力ある事業として継続するためには、もっともっと多くのエネルギーが必要だと思います。

協力隊参加者は4万人を超えたと言います。JICAは帰国後の社会還元と声を大にして言っています。シニアボランティア事業にも多くのOB/OGが参画しています。高齢化社会を迎えている現在、協力隊経験者はどこに向かっているのでしょうか。若かりし日に不安と期待をもって飛び込んだ協力隊事業、みんなあの頃は元気だった。これからも元気いっぱい生きていきたい。協力隊事業も元気であってほしい。これからも夢と希望をもった若者がたくさん参加してくれる協力隊事業であってほしい。そう願わずにはおれない新年の気持ちです。

最後に、今日も開発途上国のどこかで悪戦苦闘している派遣中の隊員たちに「頑張れ！頑張れ！」とエールを送りたいと思います。



ツルカナ族の子供と

青年海外協力隊千葉OB会
会長 浜田 眞一
(昭和51年度2次隊前期)

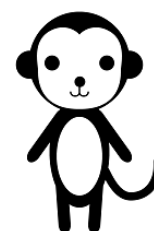
目次

1. 会長挨拶
2. 活動報告
3. 活動予定
4. 現地活動レポート
 - H27-1 國友 達朗
 - H26-4 渡邊 真希
 - H27-1 稲葉 健一
 - H26-4 平瀬 千登世
5. 編集後記

ネパール
エルサルバドル
パラグアイ
ボツアナ

小学校教員
コミュニティー開発
コミュニティー開発
コミュニティー開発

市原市
野田市
佐倉市
千葉市



2. 活動報告(2015年8月～12月)

定例行事

JOCV ナビ (協力隊参加希望者相談会)

毎月第4土曜日の14:00～16:00に浦安市国際センターにて開催しました。春と秋の募集期間に相談者が多くなる傾向にありますが、応募者調書作成指導や2次選考のための模擬面接などきめ細かい対応により、毎年複数名の合格者を出しています。アクセスの関係で東京からの相談者も来ます。相談員は原則2名で、1名は元JICA職員でもあるシニア世代のOB、もう1名は若手の組み合わせて実施しています。相談者実績は以下の通りです。

8月:0名 9月:1名 10月:2名 11月:0名 12月:1名

定例会

奇数月の第4土曜日、16:00から浦安市国際センターにて開催しています。参加者はそれほど多くはありませんが、イベントや会報発行に関することなどを協議しています。参加者には交通費を支給していますので、多くのOB/OGに参加してほしいと思っています。ただ、今期はJOCV発足50周年関係のイベント等が忙しく、なかなか定例会を定期的に開催することが困難でした。実際には、8月に臨時で会報発送作業を兼ねて開催したほか、9月のエッセイコンテストの作品発送作業を兼ねて開催しただけに終わりました。定例会は定期的に開催した方が良いでしょうが、役員間のメールベースでのやり取りで情報共有ができていますので、なにか決めなければならない事項でもメール決裁で十分に機能していますから、今後も文明の利器をフル活用することになりそうです。

新隊員派遣壮行会

年4回派遣される新隊員の出発前県庁表敬後に千葉県海外協力隊を育てる会と共催にて以下の通り開催しました。昨年度からは帰国隊員の帰国時県庁表敬もありましたので、この壮行会にも出席する帰国隊員もいます。尚、会費について、当会は新隊員の個人負担分(1,000円)を除いてOB会負担分として経費を支出しています。新隊員はOB会員の卵たちですから、先行投資と考えています。また、新隊員には会報も配布しています。昨年度からは派遣中隊員にも寄稿してもらっていますから、まずは寄稿のお願いです。

H27/2次隊:9/18(金) プラザ菜の花 新隊員7名参加
H27/3次隊:12/22(火) プラザ菜の花 新隊員7名参加

JICA ボランティア家族連絡会

8月29日(土)、13:00より千葉商工会議所にてJICA東京と共催で開催しました。当日の出席者は29隊員のご家族45名、日系社会ボランティアとSVのご家族4名、全体で49名のご出席がありました。プログラムは二部制で、第一部は家族連絡会、JICA東京地域連携課の佐藤俊也課長(H元-2次隊、ヨルダン)によるボランティア事業概要説明と質疑応答があり、共催・後援団体の事業紹介(自己紹介)、それに第二部で協力してくれる帰国隊員等の紹介がありました。第二部は帰国隊員の活動報告会となっており、7名の帰国隊員と日系青年・SV各1名が各部屋に分かれて活動報告をしてくれました。ご家族は興味のある帰国ボランティアの部屋に行って、熱心に説明を聞いていました。16:00までの3時間でしたが、あっという間に時間は過ぎてしまい、ご家族はまだまだ聞きたいことがあったと名残惜しそうに会場を後にしていました。昨年度まではJICA主催の家族連絡会と別に千葉県海外協力隊を育てる会も同じような家族懇談会を開催していたのですが、対象となるご家族は一緒ということもあり、今年度からJICAとの共催になりました。

JICA エッセイコンテスト2015

JICAが毎年全国規模で実施している作文コンクールですが、中学生と高校生の部があり、全国各県のOB会は後援しており、中学生の部の一次審査で協力しています。千葉県は毎年2,000部を超える応募があり、10名くらいの方々在一次審査員として協力していただいています。当会では一次審査を在宅審査(自宅で応募作品を読んで、数点を選ぶ審査)と集合審査(在宅審

査で選ばれた作品を千葉県として2次審査に上げるため、審査員が集まって10数点を選ぶ審査)に分けて実施しています。中学生の作文を読んで選ぶのは大変ですが、今どきの中学生の関心や考え方を理解することができ、なにより脳の活性化には大いに役立っていると思います。(主観的なコメントですが)在宅審査員と集合審査員、どちらの審査員にも謝金が支給されます。

昨年は柏市立柏中学校の2年生男子が最優秀賞(三賞)にあたる文部科学大臣奨励賞を受賞、JICA国内機関長賞1点、佳作にも3点選ばれました。他にはJOCV/OB会長賞に5点を選びましたので、一次審査を通して、二次審査、最終審査に上がって行った10点すべてを表彰することができました。ご協力いただいた一次審査員の皆さん、ありがとうございました。来年度も(たぶん)実施されるでしょうから、是非とも審査員をやってみたいと思われる方は当会ホームページに掲載されているメールアドレスにアクセスしてみてください。1審査員100作品くらいを審査していただきますが、楽しいですよ。お待ちしています。尚、作文の募集期間は6月中旬から夏休み明けの9月中旬までの3ヶ月で、一次審査は9月20日前後からスタートして1ヶ月程度で終了します。最終審査は12月上旬に行われ、表彰式は次の年、2月下旬に行われています。

JOCA 評議員拡大ブロック会議(全国合同)

11月17日(火)、10:00から11:30までJICA横浜にて開催されました。付議事項としては平成27年度各県OB会活動報告、JOCA地方創生事業の進捗状況報告、平成28年度評議員の改選、映画「クロスロード」の今後の展開などでした。この会議は、午後から開催されるJOCV発足50周年記念式典に先立って開催されましたが、JICA主催の式典が平日開催で全国からのOB/OGの参加者が少ないことを危惧したJOCA本部が動員をかけたと理解しています。(実際には杞憂に終わりましたが)

尚、前日の17:00からは広尾の旧事務局にある慰霊碑に献花を行いました。これは毎年評議員会の初日夕刻に行っているものであり、今回の会議は午前中だけでしたが、貸し切りバスを仕立てて代々木から広尾まで行ってきました。

JICA 理事長表彰

前述の拡大ブロック会議の終了後、同じ会場にてJICA主催の授与式が行われました。これは青年海外協力隊発足50周年記念特別表彰として、全国の協力隊を育てる会とOB会が表彰されたものです。表彰された各団体にはそれぞれ名前入りの盾が小川JOCV事務局長同席で堂道副理事長から贈られました。当会にも「青年海外協力隊千葉OB会殿」と書かれたガラス製の盾(縦16cm、横11cm)が贈られました。JOCV事務局から各団体へ送られてきた文書には、「当機構では青年海外協力隊発足50周年を迎えた本年、JICAボランティア事業へのこれまでの長年にわたるご支援に対して謝意を表するとともに、今後も引き続きご支援をお願いする意味も含め、全国の協力隊を育てる会及びJICAボランティアOB/OGの皆様方を表彰させていただくことになりました。」とあります。全国47都道府県のOB会と育てる会へ記念の盾が贈呈されたのですから、JICAも太っ腹なものです。やる時にはやるって感じでしょうか。いただいた盾はとりあえず会長宅にありますが、来年度の総会には会場へ持って行こうと思っています。



記念の盾

グローバルフェスタ

日本で一番大きな国際協力・交流フェスティバルであるグローバルフェスタが10月3日と4日の土日、お台場プロムナードで開催され、当OB会も出展しました。

会場では、例年通り、外務省、JICA、NGO・NPOなど広場一杯にテントの花が咲きました。オープニングセレモニーではMay J.さんが「レット・イット・ゴー～ありのままで～」等を披露し、会場を大いに盛り上げました。その他、「林修先生と知ろう！学ぼう！国際協力」やアンダーグラフさん・カズンさんによる「ひとりひとつ～青年海外協力隊50周年スペシャルライブ～」等のステージイベントが行われました。

今年は千葉県マスコットキャラクターのチーバくんに協力を依頼しました。チーバくんは他のイベントでも忙しかったようですが、千葉県職員であるOB会メンバーに調整してもらったこともあり、2日間ともチーバくんは協力してもらえました。イベント開催中は当OB会ブースだけではなく、他の千葉県に拠点を置くNPOにもチーバくんが応援に駆けつけ、みなさんに大変よろこんでいただけました。イベントを盛り上げるのにおおいに貢献できたと思います。

また、今回は当OB会の初めての試みとして、飲食店ブースとして出展しました。メニューには、昨年から不定期に開催している「グローバルキッチン」で好評だったメニューであるベトナムの「揚げ春巻き」とパラグアイの「マテ茶」を選びました。マテ茶、揚げ春巻き共に好評で、揚げ春巻きは2日目の早い時間に売切れてしまいました。ただ、前日の準備が大変だったこと、春巻きに使用するライスペーパーが一日置くと水を吸ってしまい揚げるのが大変だったことなど、反省点も多々ありましたが、レンタカーを借りたことなどからコストも上がってしまい、純利益は1000円程度となってしまいました。



揚げ春巻き準備の様子

今回は、協力隊OBだけでなく、青山学院大学の学生さんにも協力いただき、総勢12名のメンバーでシフトを組み、無事に2日間の日程を終えることができました。反省点はありましたが、お客さんには楽しんでいただけましたし、千葉に拠点を置くNPOとの繋がりも出来、JOCVの活動についても多くの方に認識していただけたので、成功したと判断してよいと思います。出展者自身も楽しんで参加することができました。



グローバルフェスタでチーバくん撮影

2016年度のグローバルフェスタにもおそらく出展することになると思います。まだちょっと早いですが、出展に興味のある方は会報の最後に記載されていますOB会メールアドレス宛にご連絡ください。特に車（チーバくんが乗れるボックスタイプ）を出していただける方がいると助かります。

JOCV 発足 50 周年記念式典

11月17日（火）午後、JICA主催の記念式典が横浜パシフィコにて開催され、全国から多数のOB/OGに駆けつけていただき、隊員派遣国の各国大使もご出席していました。13:00からのオープニングでは、訓練所や隊員活動紹介等のビデオが上映され、式典第一部開始の15:00直前には物故隊員追悼の黙祷がありました。

天皇皇后両陛下がご着席になり、定刻通り第一部が始まりました。天皇皇后両陛下は協力隊が始まった昭和40年当時は皇太子殿下・同妃殿下で、初代の隊員から東宮御接見と言う形で出発する隊員を励ましていただきました。天皇になられた直後は拝謁となり、現在の皇太子殿下下で結婚されたのを機に、皇太子殿下・同妃殿下御接見に戻りました。式典は身置もありませんが、とても感動的なもので、式辞や来賓祝辞など型どおりなものもありましたが、派遣国からのビデオメッセージは初代隊員が派遣されたラオス首相からのもので、心温まる内容でした。帰国隊員の言葉も素晴らしく、なにより次世代からのメッセージとして高校一年生男女が登壇して、将来を担う決意が語られましたが、このような若者が続いてくれれば日本はまだまだ安泰と思うことができました。

第一部は30分程度で、第二部が15:50から始まりました。オープニング映像に続いて民族音楽（ドラム）が生演奏され、10名程度のOB/OGが民族衣装に身を包んで、舞台上で踊り歌いました。ただ、中心となった黒人リーダーが会場に向けて「JICA, JICA」と連呼させたのには少々辟易しました。式典等終了後に会った何人かのOB/OGも同じように感じたらしく、中には「俺たちはJOCVなんだけどなあ。」と、当たり前のことを言うOBもいました。第二部プログラムはどんどん進み、次は「パネルトーク」、初代スポーツ庁長官の鈴木大地さんに帰国隊員男女各1名にMCが登壇、派遣中の苦労話、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた話があり、これはこれで良かったと思います。映画「クロスロード」の紹介もありませんでしたが、きゅんいちOBが行った後、イメージソングが紹介されました。舞台には庄野真代さん、アンダーグラフ、倉木麻衣さんのほか、高橋尚子さんや乙武洋匡さんも登場して大いに盛り上がりました。曲名は「ひとりひとつ」です。なかなかすぐには覚えられそうにありませんが、何回も聞いて是非とも歌えるようになりたいと思います。

最後は、「若い力」の大合唱でした。古いOB/OGほど歌詞をそらんじているようで、訓練所や任国の歓送迎会で何回も歌った歌を元気よく大きな口を開けて歌いました。舞台には訓練生もたくさんいましたが、聞けば、式典参集者が多すぎて、駒ヶ根と二本松の各訓練所の訓練生は会場に入らず、大半はモニターで式典を見ていたとのこと。舞台上上がった訓練生はラッキーってところでしょうか。終わってみれば、あっという間の4時間で、暗くなった会場を参集者の皆さんは満足した様子で後にしていました。きっと久しぶりに会った昔の仲間と中華街など横浜の街に繰り出したことと思います。

映画「クロスロード」

JOCA製作の映画「クロスロード」が11月28日（土）に封切られ、全国上映されました。ただ、全国といっても日本国内全ての県で上映された訳ではなく、千葉県でも千葉市内蘇我の映画館1館だけでした。主演がEXILEの黒木啓司さんと、渡辺大さん、TAOさんの3隊員を中心に、フィリピンの有名女優アロディアさん、渋いところで訓練所長役には長塚敬三さんが出演しています。映画を見ていた時には思い出せなかったのですが、榊原みさんも出ていました。古い方にはお馴染みですが、どうも記憶障害が起こったようです。JOCA本部からは観客が少ないと途中で打ち切られるとの危機感から、再三にわたってチケット拡販やPRの依頼がありましたが、上映された映画館では予定されていた2週間、途中で打ち切られることなく無事に予定通り上映されたようです。また、封切りの直前にはテレビのワイドショーでこの映画を取り上げてくれた局もありました。自宅で偶然チャンネルを変えたら、丁度紹介中でした。

また、全国の映画館での上映終了後の2月あたりからは、DVDによる自主的興業が始まる予定です。全国半数の県では上映

されなかったため、各県OB会が中心となり、公民館やどこか人を集めての上映会を企画することになります。

千葉県でも実施したいのですが、具体的にはこれからの検討になります。各市町村の国際交流協会などに働きかけて、是非とも上映会を行い、多くの方々に見ていただきたい映画です。

グローバルキッチン

青年海外協力隊50周年記念事業として、JICA東京と共催で千葉市生涯学習センターにて実施しています。JOCV OB/OGまたは外国出身の講師が各国の食文化を紹介し、参加者全員で調理・食事をし、任国の食文化を体験するイベントです。隔月程度の頻度で実施しており、これまで、パラグアイ(2/8)、ベトナム(5/10)、タンザニア(7/26)、フィリピン(9/26)、ブータン(11/28)の食文化を紹介してきました。協力隊に興味のある方など、定員(30名)以上の参加希望をいただくこともあり、好評をいただいています。

フィリピンの紹介内容(9/26)

フィリピン出身の5人の講師により、フィリピンの文化、料理が紹介されました。フィリピンの調味料の紹介や日本での入手方法も紹介してもらい、現地の味に近いフィリピン料理を体験できました。また、現地でよく食されるティラピア料理の紹介もありました。

紹介料理

- パンシット(ビーフン焼きそば)
- ピナクベット(野菜炒め)
- アドボ(肉の煮込み)
- シニガン(スープ)
- ポコサラダ(フルーツカクテル)



調理したフィリピン料理



フィリピン料理紹介の様子

ブータンの紹介内容(11/28)

ブータンOVの講師により、ブータンの文化、料理が紹介されました。幸せの国として日本でも話題となっている国であり、参加者全員が興味深く聞いていました。ブータンの民族衣装キラ、ゴの紹介もあり、おいに盛り上がりしました。

紹介料理

- パケワダチ(ジャガイモのブータン風チーズ煮込み)
- シャモダチ(きのこのブータン風チーズ煮込み)
- パクシャパ(ブータン風豚肉煮込み)
- ホゲイサラダ(ブータン風唐辛子入りサラダ)



唐辛子を野菜として使用する辛いブータン料理



ブータンの民族衣装 キラ(女性用) ゴ(男性用)

年会費

ご存知のように当会の年会費は1,000円となっておりますが、12月25日現在の状況は以下の通りとなっております。

納入会員数 100名 納入金額 161,000円

昨年度に比べると、納入してくれた会員数は少しだけ減少しましたが、金額的には多くなりました。当会の財政的な生命線は会費ですから、「イベントや会合などへの協力や参加はできないが」と言う方は是非とも会費会員としてご協力いただければと切に願っています。本会報に添付した文章にも会費のことを記載しましたので、口座をご確認の上、振り込みをお願いします。

活動実績の詳細はHPをご覧ください。

3. 活動予定(2016年1月～6月)

JOCV ナビ(協力隊参加希望者相談会)

毎月第4土曜日、14:00～16:00、浦安市国際センターにて開催します。今後も多くの相談者が来てくれて、合格者が増えれば良いと願っています。尚、相談員をやってみたいという方は当会メルアドにアクセスしてください。相談員2名体制ですから、シニアと若手の組み合わせがベストです。相談員には交通費と謝金が支給されます。

定例会

これまで同様に奇数月の第4土曜日、16:00から17:00くらいまで、JOCV ナビ終了後から開催します。活動内容については当会ホームページに掲載していますが、なにか新しいアイデア等があれば是非とも検討したいと思います。年間行事として決まっているものもありますが、グローバルキッチンなどJOCV 発足50周年記念企画として実施しているものもありますので、お気軽にお出かけください。

新隊員派遣壮行会

今後も新隊員派遣前の県庁表敬後に千葉県海外協力隊を育てる会と共催で実施します。場所はモノレール「県庁前」駅の隣のビル、菜の花プラザで開催することが多いです。今年度は午前中の県庁表敬でしたから、昼食を兼ねての開催となりました。壮行会とはいえ、昼間から飲むのは少々気が引けますが、新隊員が無事に出発して2年間の任期を全うして帰ってきてくれることを祈念しての開催ですから、神様も多少は大目に見てくれるでしょう。OB会としての出席者が少ないのが悩みですが、ホームページで日程をご確認いただき、ご都合が良ければご参加ください。

懇親会(2/21)

2/21(日)17:00より西船橋で開催予定です。最新情報はホームページ、facebookに記載しますので、ご確認ください。

グローバルキッチン(3/6)

50周年記念イベントとしてのグローバルキッチンの最終回を3/6(日)に実施します。最後の締めくくりとして海外で紹介できる千葉の郷土料理紹介を実施します。これから海外に行く予定のある日本人や外国人をターゲットとします。

50周年イベントとしてのグローバルキッチンはこれで最後となりますが、2016年以降もJICA 東京と共催で引き続き実施することになりました。ネパール、メキシコ、ラオスをテーマに実施することを予定しております。準備を手伝ってくれる方を募集していますので、興味があれば会報最後のページに記載されている当OB会の連絡先までご連絡ください。

協力隊まつり(4/23, 24)

協力隊発足の日に合わせて、例年4月に開催してきましたが、2016年も4月23～24日(土日)に市ヶ谷のJICA地球ひろばにて開催予定です。一昨年までは広尾の旧事務局で開催してきましたのですが、民主党の事業仕分けに合い、旧事務局は国庫返納されましたので、昨年からは場所を市ヶ谷に移して開催しています。昨年は当会も久しぶりに参加して、協力隊に関心のある、或は参加したいという若者を対象に事業紹介と応募相談を行いました。現在、OB/OG有志からなる実行委員会が組織され、具体的な内容が検討されています。グローバルフェスタと異なり、建物内の閉鎖的空間での実施ですから、どうしてもできることの制約が大きくなります。また、場所柄、一般の方々の来場が少なく、広報にもお金がかけられないジレンマを抱えながらの準備となっています。当会からは西村邦雄会計監査に実行委員をお願いして、打ち合わせ会議等に出席していただいています。

総会(4/16)

4月16日(土)、15:00から16:30まで平成28年度総会を開催予定です。場所はいつものように浦安市国際センターになります。議事内容は、平成27年度の活動報告に会計報告、平成28年度活動計画案と活動予算案になります。昨年度は役員改選がありましたが、任期は2年ですから今回はありません。ただ、事務局長のポストが空席となっていますので、総会までにはなんとか適任者を見つけたいと思っています。自薦他薦、どなたかやっただけでないでしょうか？出でよ、ボランティアでしようか。

最新の活動予定についてはHPをご覧ください。
(「JOCV 千葉 OB 会」で検索してください。)



千葉の郷土料理 太巻き

4. 現地活動レポート

H27-1 國友 達朗 ネパール 小学校教員 市原市

『笑顔のちから』

ネパールでは、4、5月の大地震をうけ、7年間決まらなかった憲法制定の動きが加速し、憲法が完成した。憲法制定はネパール国民にとって待ちに待った歓喜の瞬間であった。しかしいろいろな民族が共存しているネパールでは、インド国境沿いに住む民族にとってそれは満足のいく憲法ではなかった。自分の任地は、インドの国境沿いのナワルパラシ。任地赴任の2日前から「バンダ」という抗議活動が始まった。そのため、赴任が延期された。任地に行けないストレス、同期隊員から遅れているという焦りなど、いろいろ苦しい思いをした。日本に帰ったほうが充実した日々を送れるのではと思ったほどだ。

しかしそんな自分を救ってくれたのは「ネパールの子もたちの笑顔」だった。任地に行けない分、首都カトマンズの学校、地方隊員の活動している学校などいろいろな学校を見ることができたし、授業もすることができた。任地に行けないからこそ、他の隊員にはできない経験をさせてもらった。たくさんの子もたちと出会い、多くの「笑顔」に出会うことができた。ネパールの学校は、日本の学校よりも設備も教材も十分ではない。でも子どもたちは目を輝かせながら一生懸命勉強をしている。「できた！見て！！」と嬉しそうにしている姿を見て、自分もこの状況に負けていけないと思うことができた。



算数の授業

自分は、日本で3年間小学校の教員として勤務し、現職参加制度でネパールに来させてもらった。担任したクラスの子もたちに「世界の子もたちを笑顔にしてくる！」と宣言し、日本を出発した。しかし逆に、自分がネパールの子もたちの笑顔に元気と勇気もらったのだ。

12月に新しい任地への任地赴任が決まっている。ナワルパラシへ行けなかった未練は心の中にあるが、任地へ行けず苦しんだ4ヶ月で感じたこと、思ったことが決して無駄ではなかったと後で振り返られるように、残りの任期をネパールの子もたちのために一生懸命活動していきたいと思う。

日本で3年間受け持った教え子が、今年度小学校を卒業する。ネパールなどの世界と日本との「違いを知る」ことで、子どもたちの可能性を広げてあげられると思っている。そのために、ブログや日本の学校への掲示物作成を通して、ネパールの文化や慣習、子どもたちの様子など、いろいろな日本との「違い」を発信していきたい。そして、そんな子どもたちがいろいろな「違い」を知り、受け入れ、周りに発信できる大人に育ってほしい。自分の協力隊生活は始まったばかりである。



子ども達の笑顔とともに

H26-4 渡邊 真希 エルサルバドル コミュニティ開発 野田市

自身はエルサルバドルのNGOに配属され、当国東部モラサン県を任地として5歳以下の子供や妊婦を対象とした栄養改善プログラムに取り組んでいます。具体的には、対象の78自治体へ毎月巡回し、①5歳以下の子供及び妊婦の身長体重計測②配給する栄養補助食品や対象住民が入手しやすい食材を使った調理ワークショップ③母親と子供と一緒に歌・運動・モノ作りを行う知育ワークショップ等を、各巡回先で同僚と共に実施しています。また、配属先のプログラムは栄養改善を主としているものの、その他にも青少年や各コミュニティにおける地域ボランティアを対象に、自尊心を高める自己啓発ワークショップやコミュニティ内の繋がりを強めるチームビルディング等、持続可能な社会形成に向けた活動も展開しています。



子どもの身長体重測定をする筆者

着任後半年を迎える現在、多様な業務の現状把握に努める傍らで、栄養改善プログラムでは知育ワークショップを、また青少年に対する自己啓発ワークショップでは日本文化紹介や日本語クラスも始めました。知育ワークショップでは、幼児期に手

や指を動かす・歌うことを通じた知育の必要性喚起に尽力し、また日本紹介については異文化に接する機会の少ない現地で、青少年における将来の選択肢が増えることや多文化社会に繋がればと想い、できることから少しずつチャレンジしております。チームは各専門家で成り立っており、各職種の業務内容も多岐に渡るため、新しい活動を提案することや実施することに困難を感じる部分も多いです。ですが、未来ある子供たちやその周囲の人々の笑顔を見ると「もっと一緒に笑いたい。もっとチャレンジしよう。」と励まされ、また温かく迎え入れて下さった同僚に対しても恩返しができるよう、前向きに奮闘する毎日です。

【任国】

エルサルバドルは“中米の日本”と称されるほど、日本と類似している点が多々見られます。例えば、火山帯故に地震が多いこと。国土は小さいものの人口密度が高いこと。人々はとても勤勉で、また家族やコミュニティの繋がりを強く意識すること等。そうはいっても“今をめいっぱい楽しんで生きる”姿勢はラテン文化由来であり、現地の人々から教わることもたくさんあります。加えて、任地であるモラサン県は自然が多い故か人々もおおらかで親切な方々が多く、とても居心地良く感じています。しかし、都市部に比べて物理的及び経済的格差が大きいことも事実であり、食料入手さえ困難な地域もあります。“現場密着型”として任地の人々と接することのできるこの協力隊生活に感謝し、できるだけ様々な想いを共有できるよう日々過ごしていきたいと思っております。



任地のモラサン県 山間部のため素晴らしい景観が多い

H27-1 稲葉 健一 パラグアイ コミュニティー開発 佐倉市

任地であるイトウルベ市に着いて4か月が経ちました。

イトウルベ市はパラグアイの首都アスンシオンからバスで6時間、近くの都市までもバスで1時間以上かかる小さな都市です。小さな都市という事もあり街中を歩いていると多くの住民が「オラ！（やあ）」と声をかけてくれます。

現在市役所に配属されており、仕事のメインは市が運営する農産物加工販売所の運営支援です。ここでは農家の収入増を目的として、地域内で生産された野菜、果物、肉とそれらの加工品の販売を行っています。

配属されてからしばらくの間はマンパワーとして現場の仕事を体験させてもらいました。トウモロコシを粉状にする作業、チーズづくり、家畜用の配合飼料を混ぜる作業等どれも重労働です。加えて実際に店員として電卓をたたき来客者への会計も

やらせてもらいましたが、商品の名前がわからずに最初は苦労しました。これらの現場作業への参加を通じて何より良かったのは、来客者や職場の人たちと直接コミュニケーションが取れた事です。一方で衛生面や安全面、業務効率面では課題も見えてきました。そうした外部者である私の視点で「気になる事」を、同僚に対して問題提起をしたり、改善できないか試行錯誤しているところです。

また、時間のある時にはこの地域を知るために片道2~10kmかけてJICAより支給して頂いた自転車で農村地域を訪問しています。畑の中の道を進んでいくと、伸び放題となったさとうきび畑が目立ちます。元々市内には砂糖工場がありそれ自体が雇用を生み出すとともに、多くの農家が原料となるさとうきび生産を行っていました。しかし、2年前にその会社が倒産したために、さとうきびも出荷ができず、市内では人口の減少、地域経済の悪化が続いており、私の勤務先の運営も厳しい状況です。その中で、農産物加工販売所をより住民に知ってもらい、活性化につなげる事を目的に広報物を作成したり、加工品の正確な利益を把握するための原価計算をするといった活動をしています。人も物も限られた中ではありますが、小さな工夫を積み重ねていく事によって運営改善につなげていきたいと考えています。



自転車で周辺集落を巡回中



作成した提示物

この他に、子供たち向けには「文化交流」と「住みやすい街づくり」を目的としたテーマ学習も行っています。これまで子供に関わる機会が無かったため、授業中も騒がしくなったりとなかなか上手くはいきません。それでも、日本の食事を紹介する場面では刺身や味噌汁などを興味深そうに見てくれました。今後は、日本の良い部分はもちろん、公害といった社会問題もテーマとして紹介しながら子供たちに考える機会を与えられたらと思っています。



小学校での活動

H26-4 平瀬 千登世 ポツアナ コミュニティー開発 千葉市

平成27年3月より、コミュニティ開発という職種で南部アフリカに位置する国ボツワナで活動をしています。私の配属先は首都ハボロネにある環境保護に取り組むソマレラン・ティコロホという地元のNGOです。1992年から環境教育やリサイクルの推進に取り組んでいますが、会計の管理や予算の獲得といった、組織の運営面があまり得意でないようで、私は主に会計管理やIT、労務管理など運営部門の業務効率改善に取り組んでいます。しかし、私自身もわからないことが多く、同僚と相談したり、空き時間を使って勉強したりしながらコツコツと取り組んでいます。

ボツワナという国は、アフリカでは珍しく、独立以降の50年で、一度も内乱やクーデターが起きたことのない国です。またダイヤモンドが豊富に採掘され、その利益が国民の教育や医療に還元されていることから「アフリカの優等生」とも呼ばれており、国民も、穏やかで争いを好まず、生活インフラもそれなりに整備されていることから、赴任前に思い描いていたよりも、暮らしやすい土地であると感じています。

もちろん、生活環境や価値観の違いなど、これまで自分が育ってきた環境と異なる部分も多く、戸惑うこともあります。自分の価値観にこだわらずに物事を捉え直してみると、また新しい発見に出会えたりもします。

たとえば、給料日の前など、同僚から、「お金がないから、お昼奢って～」などと言われることが多く、はじめは、「外国人でお金を持っていると思われるのかな。」と落ち込んだり腹立たしく思ったりしていました。



リサイクルチームの仕様の様子(回収した缶を分別している)



同僚からの誕生日祝い

5.編集後記

千葉OB会会報新年号、いかがでしたでしょうか？ 会報に関するアイデア、投稿を随時お待ちしております。会報発行をリードしていきたくという方も募集中です。2015年はJOCV50周年記念となる年ということで、多くのイベントが開催され、OB会活動も活発になりました。2016年もJOCVナビ、各イベントの参加、グローバルキッチン等を継続して続けていきます。活動に少しでも興味のある方は、定例会やイベント情報をHP・facebook・メーリングリストでご案内していますので、是非ご確認ください。

(H15-1 マーシャル諸島 理科数科教師 鳥飼 恵美子)

～お知らせ～

ホームページのご紹介

定例会/協力隊ナビ/講演会/懇親会等、各種イベントのスケジュールや、活動報告を掲載しています。
青年海外協力隊 千葉OB会 ホームページ：<http://www.jocvchiba.net/>

facebook グループのご案内

情報交換を目的にFacebookグループを作成しています。是非ともご参加ください。
青年海外協力隊 千葉OB/OG会！：<https://www.facebook.com/groups/602920879760218/>

連絡先

お問い合わせや会報への寄稿は info@jocvchiba.net までお願いします。